

三年癸壺甲

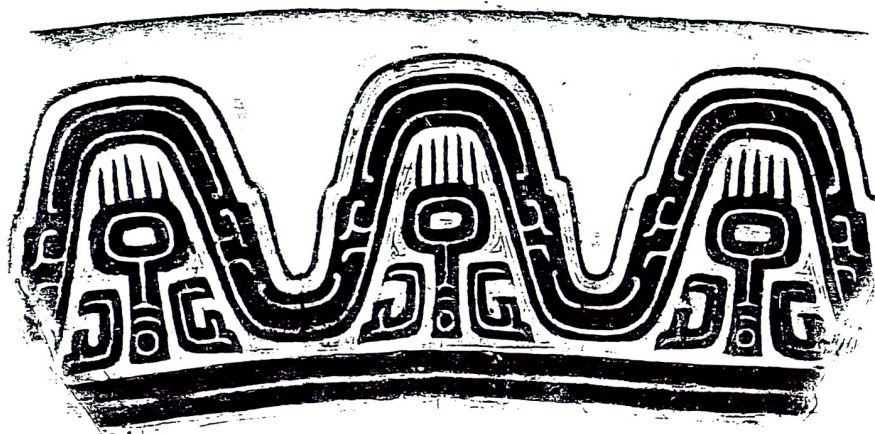
1976 年、莊白一號窖藏出土。周原博物館藏。

通高 65.4 cm、口径 19.7 cm、腹深 48.4 cm、重さ 25.5 kg。

この壺は形がやや大きく、西周中晩期になって行われはじめた新興的な形態の壺で、西周晩期の新花紋の先駆けをなす。酒を容れた器と考えられる。蓋頂には団烏紋を飾り、蓋の縁と圈足には竊曲紋、器体頸部と腹部には波浪状環節紋を飾っている。

蓋樺外側に 11 行 60 字の銘文が鑄られている。銘文によれば、3 年 9 月下巳、周王は鄭地にあつて饗礼を挙行し、姜俎を賞給した。巳丑、周王はまた句陵にて饗礼を挙行した。王は師壽に命じ癸を召し入れ、また彘俎を賞給した。癸は天子の厚賜を拝領し、亡祖亡父のためにこの器を作り、記念としたとある。

佳三年九月
丁巳王在鄭
饗醴呼虢叔
召癸錫羔俎
乙丑王在句
陵饗逆酒呼
師壽召癸錫
彘俎拝稽首
敢對揚天子
休用作皇祖
文考尊壺癸
其萬年永寶。



三年癸壺（頸部中段）